壺

『新壺』
52-12号

ひそかにも壺の内部を覗く夜半充たせるなきに水音のする

鬼と神共に棲みるる内部より逃がれてひとりなる存在感

汝の嘘測らむとして巻尺の巻きの堅さを徐徐に解しぬ

ほぐ

遺しおく何もなき身に日日磨く鍋のたぐひは棚に光りて

骨皺延ばすと掛けおく合コートの腕垂れしまま季の移ろふ